

クローズアップ

NGO・NPO

特定非営利活動法人

地球緑化センター

地球緑化センターの中国緑化活動 「緑の親善大使」

一九九三年四月
一八日第一回「緑
の親善大使」が派
遣されてから、こ
れまでに一五〇〇
人以上の市民がボ
ランティアとして
参加をしています。



↑参加者

地球規模で環境問題が叫ばれる現在、植
林を必要としている面積は広大で、ボラン
ティアができることは本当にわずかなもの
かもしれません。しかし、小さな一歩は大
きな一歩を生み出します。現地の人々に
とっては、同じ市民である私たちが、遠い
国から木を植えにやってくることによっ
て、植林に対する関心が高まり、緑化が進
む原動力になっています。

中国を訪れ、日本においては気付かなか
ったことに気付かされたり、現地の人々の生
き方に魅了されたり、広い大地や空に何か
を感じたり、自然とのつながりに新たなこ
とを学んだり…この経験から得られるもの
は、それぞれ大きく心に残ると思います。
数え切れないほどたくさん持ち帰る心
のお土産が、再び始まる生活にとって新し
い心の糧となることでしょう。

中国の緑は今 — 深刻な砂漠化

中国の国土は日本の二六倍くらいです
が、毎年東京都と同じくらい面積の緑が
減り続け、現在の森林率は一〇%台です。

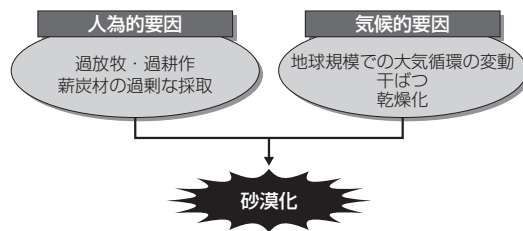
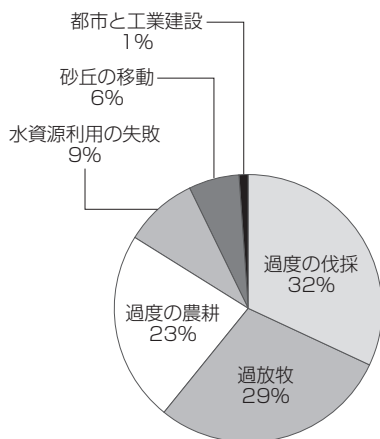
砂漠化の原因は気
候的要因と人為的
要因があります。

このように二つの
要因がありますが、
残念ながら気候変
動よりも人為的要因
によって砂漠化が引
き起こされていると
考えられています。
もちろん、地球温暖
化も砂漠化の一因と
なっています。

緑化活動への取組

地球緑化センターは、一九九三年の設立
当初から中国での緑化活動を行っており、
国内でボランティアを募り七〜八泊程度の
日程で植林を行います。実際の植林活動
は、正味二〜三日で、移動の途中は史跡・

●中国における砂漠化の原因とその割合



(特活) 地球緑化センター

〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-7-4 清水ビル3階 TEL 03-3241-6450 FAX 03-3241-7629
 e-mail : info@n-gec.org URL : http://www.n-gec.org



国際ボランティア活動は、あくまで現地
 の状況を尊重する形で進められなければな
 りません。こちら側の理想と情熱だけで
 入っていくのは、押しつけ、ヘタをすれば
 文化・社会の崩壊につながります。
 地球緑化センターでは、中国科学院、地
 元人民政府と緊密な連携を取りながら、現
 地の状況にあった植林活動を進めています。

●中国の取り組み緑化活動

●植樹祭

国民の義務になっています。

●三北防護林計画

1978年から始まった
 総延長4500キロに及ぶ
 緑の長城計画。

●退耕還林

傾斜25度以上の斜面を
 すべて耕作禁止とし、
 緑化を進める政策。

●天然林保護プロジェクト

●地球緑化センター 中国における活動地区の緑化推進状況

緑化項目	伊金霍洛旗			重慶江津市		豊寧滿族自治県		延慶県 (万里の長城)
	植林本数 (ha)	空中播種	関連活動	植林	関連活動	植林	関連活動	植林
H5 1993	5万 (28ha)	0	親善大使派遣					
H6 1994	10万 (56ha)	100ha	移動用車両購入					1万 (6ha)
H7 1995	15万 (83ha)	150ha						2万 (11ha)
H8 1996	15万 (83ha)	150ha						3万 (17ha)
H9 1997	15万 (83ha)	300ha						3万 (17ha)
H10 1998	15万 (83ha)	150ha	給水車購入 果樹農家支援開始					5万 (28ha)
H11 1999	15万 (83ha)	100ha	水やり8回 移動車両購入 就学支援開始	11.6万 (156.4ha)	作業路敷設 親善大使派遣			3万 (17ha)
H12 2000	10万 (56ha)	0	水やり9回 井戸1本 給水車購入	20.8万 (206.6ha)	圃場建設			
H13 2001	2万 (11ha)	0	水やり 作業道路敷設	45.3万 (270ha)	貯水池建設 試験場建設	500ha	第一期調印 親善大使派遣	
H14 2002	3万 (16.8ha)	0	水やり 補植 10周年記念行事	62.3万 (385ha)	新植林地 貯水池建設	500ha		
H15 2003	0.1万 (0.6ha)	0	ボランティア受入・ 人的交流継続	28万 (193ha)	新植林地	500ha		
H16 2004	0.1万 (0.6ha)	0	ボランティア受入・ 人的交流継続	10.5万 (86ha)	新植林地	500ha	第二期調印 (~06年) 展示室完成	
H17 2005				4.6万 (56.7ha)		500ha		
H18 2006				2.6万 (32ha)		500ha		
H19 2007			15周年記念植樹	2.6万 (32ha)		132.5ha	第三期調印 (~09年)	
H20 2008	29.6万 (266ha)	0	Panasonic、日本触媒事業開始	1.5万 (20ha)		125ha	交流センター完成 青年海外協力隊派遣 ECナビ・エグゼキューブ開始	
16年合計	134.8万 (850ha)	950ha		189.8万 (1417.7ha)		3257.5ha		17万 (96ha)

2008.6月現在

クローズアップ

NGO・NPO

財団法人

PHD協会

(Peace, Health and Human Development)

平和と健康を担う人づくり

協力という言葉の意味するものは、一方的な働きではなく、お互いに力を出し合うことだと思えます。するだけ、受けるだけの一方的な関係ではないと思えます。あるとき、ある場面ではする側、受ける側でしょうが、別のとき、場面では、立場が変わることを意識した関係が、今の世界の状況に必要なことだと考えます。

ひとりで国際協力といっても、そのやり方、考え方にはいろいろあります。PHD協会の活動にはいくつかの特徴があります。目の前に見える状況に対して、直接、モノやお金を渡すことはほとんどしません。緊急救援は他にお任せします。慢性的に困っていることに、一時的にはなく、どうしてそうになっているのか、原因を探り、そこからの解決をめざします。

その解決に取り組む主役は外部の人ではなく、その当事者、その地域に住む人々であることを大事にします。

原因を調べていくと、それは問題がみえるところにあるだけではなく、そのまわりや遠いところにあることもわかってきます。支援する私たちと対象地域とのあいだに関係があることもみえてきます。さらにその過程で対象地域が問題だらけかといえは必ずしもそうではなく、いいところ、すばらしいところがあることもみつかっていきます。

こんな考え方を土台に展開されるPHD協会の中心事業は、アジア・南太平洋の草

の根の青年を日本に迎えて行う研修です。日本から対象地域にでかけ、現地の状況調査と面接を行い、人を選びます。

来日した研修生はまず六週間の日本語研修を受けます。それから西日本を中心とした各地に滞在し、出身地域の問題解決に役立つ知識、技術を学びます。内容は人によって異なりますが、それぞれの出身地域の必要に応じて農業、保健衛生、保育、裁縫などを学びます。大がかりな、高価な機械、道具や施設を必要とするものではなく、村にあるものを使って、村の人々といっしょにできることがその内容です。

また一人で村をよくすることは簡単ではありません。仲間がいて、いっしょに取り組み人が集まって可能になります。そこで、人を巻き込む、いっしょに取り組みするための仲間づくり、組織づくり、運営を学びます。

さらに後半に、日本の社会から学ぶ時間を用意します。研修生の学ぶ場所は日本ですが、そのすべてがお手本になるのかといえは、そうではなさそうです。日本にも様々な社会問題があり、困っている人、苦しい状況にある人もいます。そこに触れ、その課題の解決への取組から学ぶことも重要だと考えました。水俣を訪ねます。広島で被爆者の方のお話を聞きます。岡山で産業廃棄物投棄の問題を見ます。大阪、釜ヶ崎では日雇い労働者や野宿者の問題について、炊き出しのお手伝いをし、学びます。それらを通じて、どのような発展が望まし

(財) PHD協会

〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202

TEL 078-351-4892

FAX 078-351-4867

e-mail : phd@mb1.kisweb.ne.jp URL : http://www.kisweb.ne.jp/phd/



↑大阪、釜ヶ崎で日雇い労働者の支援活動を行うシスターから話をきく、海外・国内研修生

いのかを考えます。研修生の出身地域の守るべきところが、そこから見えてきます。

一年の経験を終えた研修生は村に戻り、まずは自ら実践し、それをまわりの人に伝え、村の課題・問題の解決に取り組みんでいきます。

この研修事業は同時に、日本に住む私たちの生活する足元、日本の社会をよくしていくこととする意識を高め、行動する人を見出すことにもつながります。日本の国内がよくなることは、海外とのいい関係に影響します。

自分のところさえよければいいのではない、まわりへの迷惑を意識し、地球の上

共存していくための行動は、国内外を問うものではないと思います。

比較的わかりやすい途上国といわれる地域の問題解決を支援することを通じて、世界と私たちの関係を知り、足元を見直し、国内の問題にも目をむける。そこから、それぞれの興味関心、能力、得意、仕事、年齢、居場所などに合わせた行動をはじめ。それを集めて、よりよい社会をみんなで作っていく。これが「平和と健康を担う人づくり」の目的です。

PHDを提唱したのは岩村昇というお医者さんです。一九六二年から一八年間、ネパールで医療活動にあたりました。帰国後、自身の医療協力をふりかえり、そこから新しい協力のありかたを考えました。地域の人が、自らの力で、地域にあるものを生かして、地域の問題に取り組んでいくことの重要性を説き、それを担う人づくりを行う研修事業を柱とするPHD協会を一九八一年に、神戸に設立しました。翌八二年から毎年、アジア・南太平洋の草の根の青年を日本に迎え、前述の研修を日本各地で展開し、彼らの村をよくすることへの協力と同時に、日本の人たちの気つきと行動のきっかけとしてきました。これまでに一〇九国、一八一人の海外研修生をお世話してきました。加えて九五年から、日本に住む人を対象とした国内研修生制度を開始し、これまでに二三人を数えます。

広いアジア・南太平洋のなかで、お手伝



↑帰国した研修生の活動地域を訪ねた日本の協力者の皆さん—ネパール、ガハテ村

いができていくところはほんのわずかにしかすぎません。しかし、来口する研修生は、多くの日本人々に出会い、学び、交流しています。非政府の組織ですが、研修生が滞在する市町村では多くの自治体のお世話にもなります。特に保健、福祉、教育、農業分野では行政の機関、施設で研修を受けることもたびたびです。

お互いが交わることから学びあい、気づく。

その気づきを、双方が日々の生活の中に活かしていく、これがPHDのめざすことです。

これからも各地で受け入れていただき、活動を続けていきたいと思っています。